

広島県庁舎の戦災復興

平成 26 年 9 月 1 日(月)～ 9 月 19 日(金)

現在の広島県庁舎は、今から 58 年前の昭和 31 年（1956）に竣工しました。この庁舎は、当時の建築技術の粋を凝らして建設されたもので、広島の戦災復興の象徴的建造物として注目を集めました。広島県庁は、原爆によって本庁舎が壊滅し、多数の尊い犠牲者を出しましたが、11 年もの歳月を経て、ようやく庁舎再建の悲願を果たすことができました。

本展では、戦前に水主町（現在の中区加古町）にあった本庁舎や、戦後 10 年間仮住まいした霞町庁舎の状況、及び現在の基町庁舎への移転の経緯等を示す資料を展示し、広島県庁舎の戦災復興の歴史を紹介します。展示を通して、県庁舎への親しみや、県政に対する関心を深めていただければ幸いです。

I 戦前の県庁舎と原爆被災

明治 4 年（1871）の廃藩置県によって広島県が成立し、広島城内に県庁が置かれた。明治 6 年には、城内に鎮台（のちの師団）が設置されたため、県庁は小町の国泰寺境内に移転したが、明治 9 年 12 月に火災で全焼し、寺町の仏護寺（広島別院）に仮庁舎が置かれた。明治 11 年 4 月 15 日、県は水主町に庁舎を新築して移転し、この庁舎は昭和 20 年（1945）8 月 6 日の原爆投下の瞬間まで、67 年間にわたって県政の中心となった。

原爆によって、県庁舎は門柱だけを残して灰燼に帰し、1,141 人に及ぶ多数の犠牲者を出した。8 月 6 日の夕方、県防空本部が比治山町の多聞院に設置され、高野源進県知事の指揮の下、翌 7 日には下柳町（現在の中区銀山町）の東警察署に拠点を移して、救援活動が行われた。その後、8 月 20 日からは、安芸郡府中町の東洋工業の一部を仮庁舎として、戦後処理に当たった。

1 広島市街地図（複製・部分） 広島市役所 昭和 13 年 9 月 [長船友則氏収集資料 200407-866]

戦前の広島県庁舎は広島市水主町に所在し、西は県立広島病院、南は与楽園（もと広島藩主の別邸）に接していた。また、霞町の広島陸軍兵器支廠（昭和 15 年に広島陸軍兵器補給廠と改称）は、戦後県庁舎として利用されることになる。現在の県庁舎の敷地（基町）には、西練兵場があった。



2 戦前の広島県庁舎（左）

3 戦前の広島県会議事堂（右）大正 15 年頃 [『広島県写真帖』所収, (複製) 県広報写真 S05-2002-108-10-11]

広島市水主町にあった広島県庁舎の本館は、明治 11 年 (1878) 4 月に竣工したもので、敷地面積約 7,000 坪、建坪 576 坪 (付属建物を含む)。県会議事堂は、県庁舎の南側に隣接して、明治 43 年 10 月に建設されたもので、建坪 309 坪。いずれもルネッサンス式木造 2 階建の瀟洒な建造物であった。写真は、大正 15 年 (1926) に出版された『広島県写真帖』に収録されたものである。



4 [絵葉書] 広島県庁 (複製) [長船友則氏収集資料 200407-1104~1107]

戦前の広島県庁舎の写真が掲載された絵葉書 4 枚。いずれも表門と本館正面周辺を写したもので、絵葉書の住所・宛名欄の印刷様式の違いから、刊行年代が分かる。また、門柱、付属建物、電線、樹木の状況の違いも、撮影年代を推定する手がかりになる。



明治 33 年~39 年



大正 7 年~昭和 7 年



大正 7 年~昭和 7 年 (右上より後年)



昭和 8 年~19 年

5 被爆直前の広島県庁舎 [『広島県庁原爆被災誌』
口絵写真(原田貢氏提供)より転載]

被爆直前の広島県庁舎の写真で、正面玄関付近の様子がよく分かる。玄関の両脇には、「守れ職場は我等が陣地」「堪へよ一億心は一つ」のスローガンが掲げられている。



6 [絵葉書] 広島県会議事堂(複製) [長船友則氏収集資料 200407-1108・1109]

戦前の広島県会議事堂の写真が掲載された絵葉書2枚で、印刷様式から刊行年代が推定できる。



明治40年~大正6年



明治40年~大正6年

7 被爆後の広島県庁舎(左)

8 被爆後の広島県会議事堂(右) 昭和20年末頃 [県行政文書 S01-2009-738 所収]

原爆によって、爆心地から約900mの位置にあった広島県庁舎は壊滅し、表門の門柱だけが残された。隣接する県会議事堂も全壊し、瓦礫の山と化した。これらの写真は、被爆後と復興期の広島市内の様子を写した写真アルバム2冊[広島県土木建築部計画課所蔵、平成21(2009)年度に土木総務課から移管]の中に含まれていたものである。



9 現在の加古町（アステールプラザ・広島市文化交流会館）（左）

10 広島県職員原爆犠牲者慰霊碑（右） 平成 25 年 6 月 9 日撮影

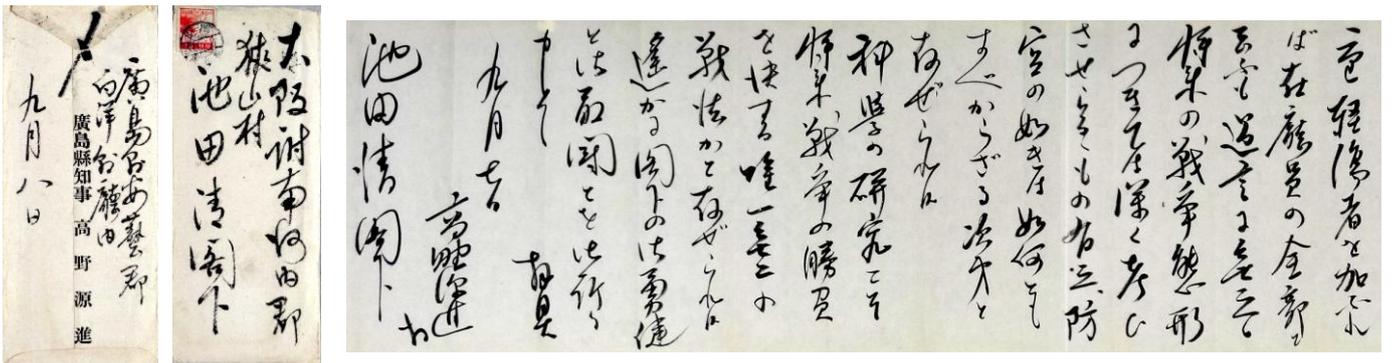
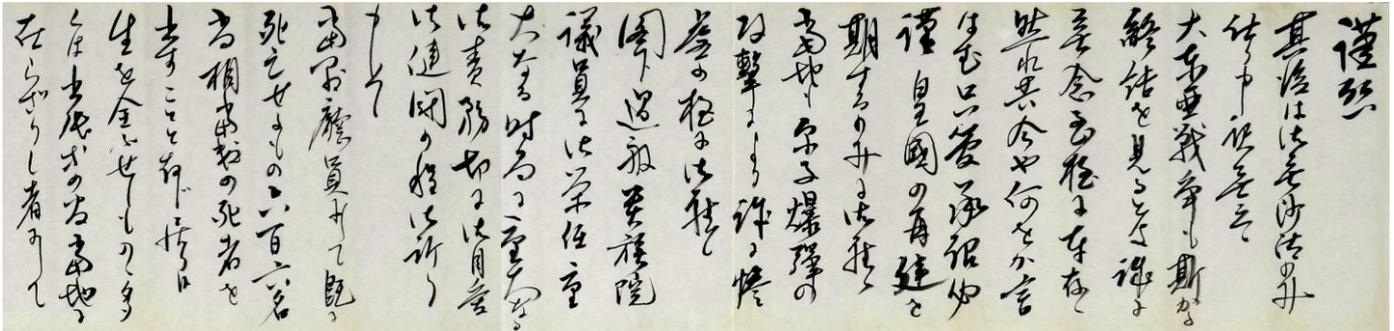
戦前に広島県庁舎や県立広島病院などが所在した水主町（現在の加古町）には、戦後広島市中央卸売市場が設けられ、現在ではアステールプラザや広島市文化交流会館などが立地している。

アステールプラザ西側の本川堤防上には、広島県職員原爆犠牲者慰霊碑が建立されている。原爆被災により、県庁舎や県の関係機関において、1,141 名もの県職員が犠牲になった。



11 池田清宛て高野源進書簡 昭和 20 年 9 月 7 日 [元広島県知事高野源進書簡 201310]

被爆時の県知事高野源進が、前任地の上司であった池田清元大阪府知事に宛てた書簡。被爆 1 か月後に、安芸郡府中町向洋の東洋工業内に移転した県庁から出されたものである。原爆被災によって水主町の県庁舎は倒壊し、この時点で県職員 606 名の死亡が確認されており、なお相当数の死者を出すだろうと述べている。



謹啓
 其後は御無沙汰のみ
 仕り申訳無し之候
 大東亜戦争も斯かる
 終結を見るには誠に
 無念至極に奉_レ存候
 然れ共今や何をか言
 はむ、只管承_レ詔必
 謹、皇国の再建を
 期するのみに御座候、
 当地も原子爆弾の
 攻撃により、誠に惨
 虚の極に御座候、
 閣下過般貴族院
 議員に御栄任、重
 大なる時局に重大なる
 御責務、切に御自愛
 御健闘の程御祈り
 申上候、
 当県庁員にして既に
 死亡せるもの六百六名、
 尚相当数の死者を
 出すことと存じ居り候、
 生を全ふせしもの多
 くは出張等の為当地に
 在らざりし者に当り、
 重軽傷者を加ふれ
 ば在庁員の全部と
 云ふも過言に無_レ之候、
 将来の戦争態形
 につきては深く考ひ
 させらるゝもの有_レ之、
 空の如きは如何とも
 すべからざる次第と
 存ぜられ候、
 科学の研究こそ
 将来戦争の勝負
 を決する唯一無二の
 戦法かと存ぜられ候、
 遙かに閣下の御勇健
 と御敢闘とを御祈り
 申上候
 九月七日
 高野源進 拜具
 池田清閣下

12 高野源進肖像

『広島県庁原爆被災誌』口絵写真（中国新聞提供）より転載]

高野源進（1895～1969）は、昭和20年6月10日に大阪府次長（現在の副知事）から広島県知事に着任。被爆当日の8月6日は福山地方へ出張中で、難を遁れた。原爆投下の報を聞いて直ちに広島へ向かい、午後6時30分頃に県の第一避難所であった比治山町の多聞院に到着、県防空本部を設置した。翌7日から下柳町の東警察署を仮庁舎として救援活動の陣頭指揮に当たった。終戦後の8月20日には県庁を安芸郡府中町の東洋工業に移転し、10月11日に警視総監に転任となった。



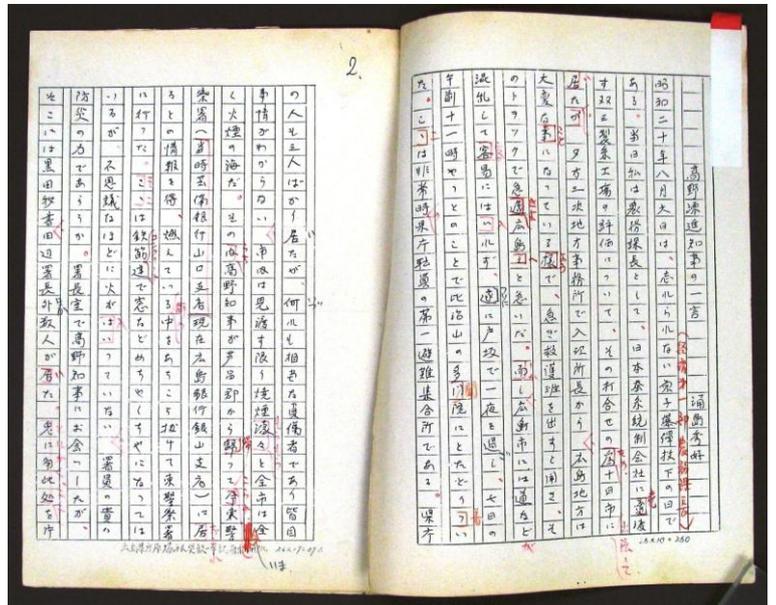
13 『広島県庁原爆被災誌』手記原本 [県行政文書 S01-2014-438・439]

『広島県庁原爆被災誌』の発行にあたって、被爆時の在職職員や遺族から提供された手記の原本。職員のうち、調査によって判明した1,529名（生存者677名、遺族852名）に協力を依頼し、422名から手記が寄せられた。この中から、所属ごとの均衡や内容の重複等を考慮して、122名分の手記が掲載された。

■ 涌島秀好氏（当時・経済第一部農務課）の手記から

…（8月7日）そのうち、いろいろな情報が来る。県職員は秋吉内政部長夫妻を初めほとんどが全滅、大塚総監は官舎で爆死、栗屋市長も爆死された。この相つぎ悲報に知事はことのほか悲痛な面持ちである。そうしているところへ、「知事さん まことに申しあげにくいことですが、あなたの奥さまも官舎でお亡くなりになりました」と、だれであったか報告をした。

ところが知事は「ああ…そうですか…」とただ一言。あとは市民救済の計画や指揮…この簡単な一語!! そばでじっとこれを見聞していた私は、これこそが長たり責任者たる者の心構えかと、感涙とともに思わず頭が下がり身が震えた。

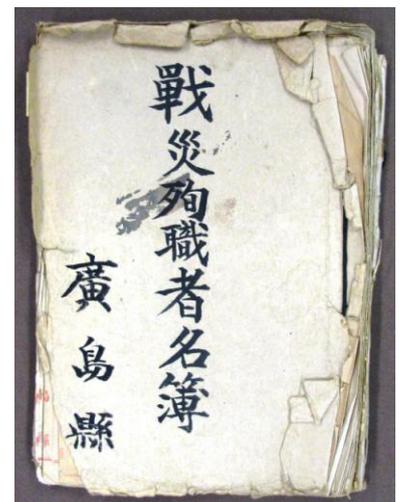


14 『広島県庁原爆被災誌』 広島県 昭和51年3月

『広島県庁原爆被災誌』は、原爆投下前後の広島県庁や関係機関の状況、及び当時の在職職員の活動の様子を記録したもので、被爆30周年を記念して、昭和51年3月に広島県が刊行した。内容は、「記録編」、「手記編」、「広島県職員原爆犠牲者名簿」から構成されている。本書の発行に係る関係資料は、平成26年6月に福利課から文書館へ移管された。

15 戦災殉職者名簿 昭和21～22年 [県行政文書 S01-2014-443]

昭和21～22年にまとめられた県庁職員戦災殉職者（原爆犠牲者）名簿。一周忌法要を営むため、昭和21年7月に人事課の照会を受けて庁内各課が回答したもので、翌22年の三回忌法要の際に修正が加えられている。



16 『更生会だより』第19号 平成7年 [県行政文書 S01-2014-445 所収]

広島県職員原爆犠牲者遺族更生会の会報。更生会は、原爆の犠牲となった県職員の供養と遺族の更生のため、昭和27年に設立され、平成7年12月に解散した。

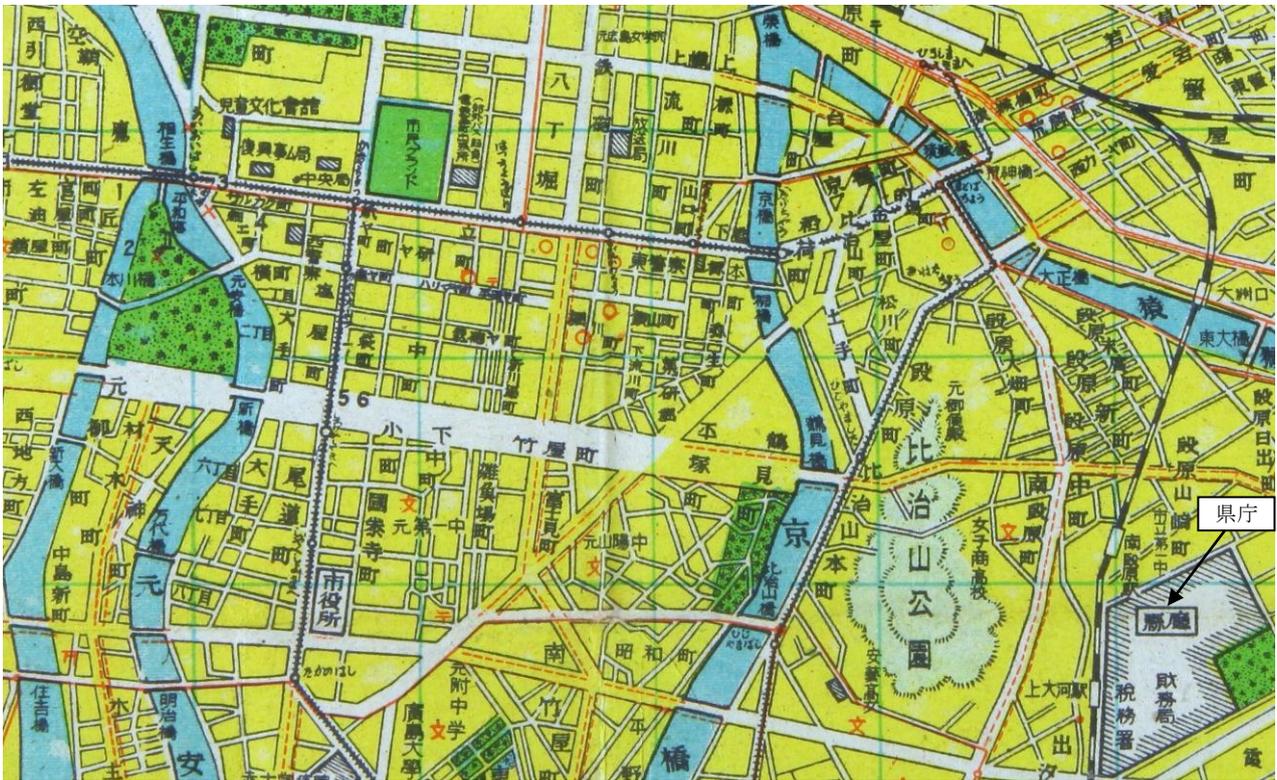
II 霞町の仮庁舎

終戦後、楠瀬常猪^{くすのせつねい}県知事（中国地方行政事務局長を兼務）は、当面の間、広島市霞町の旧広島陸軍兵器補給廠を県庁舎として利用するのが良策と考えた。そこで、この建物を共同管理していた広島財務局長らと協議の上で特殊物件処理委員会に諮り、昭和 21 年（1946）2 月に県庁舎への転用が決定された。こうして広島県は、7 月 15 日に東洋工業から庁舎を移転し、以後 10 年間にわたってこの場所に本拠を置くことになった。

この建物は、もともとレンガ造りの兵器倉庫であったが、その内部を改修して事務室として利用した。そのため、通風や照明など、執務環境に問題があり、修繕費が年々かさんで、地理的にも不便であった。また、国有財産であったため、使用料の納付も必要であった。これらの諸事情により、昭和 20 年代後半以降、次第に新庁舎建設の機運が高まっていった。

17 復興大広島市地図（複製・部分） 塔文社 昭和 24 年 5 月 [長船友則氏収集資料 200407-875]

昭和 21 年 7 月 15 日から、広島市霞町の旧陸軍兵器補給廠が県庁舎として利用された。ここには、中国財務局や広島国税局などの国の機関も入居し、最寄駅である国鉄宇品線の上大河駅は、通勤客で賑わった。なお、水主町の旧県庁跡地を南北に貫く道路（現在の市道中島吉島線）が書かれているが、この地図で黄色に塗られた道路は都市計画予定線であり、この時点では開通していない。また、現在の県庁舎の敷地（基町）は、市民グラウンドとして利用されていた。



18 広島県庁舎（6号館）

[広島築港百年史編纂委員会資料(藤原信雄殿所蔵写真) 200307-277]



霞町の県庁舎は、旧広島陸軍兵器補給廠の兵器倉庫を事務室用に改修したもので、主に 8 棟の建物を本庁舎として利用した。このうち、正門近くにあった 6 号館には、知事公室や総務部の事務室などが置かれた。

19 広島県庁舎（県議会議事堂地鎮祭）昭和 24 年

[坊 敏之資料 200105]

霞町の県庁舎は、独立したそれぞれの建物に各部の事務室が分散して配置され、渡り廊下もなかったため、各部間の連絡が非効率で、雨天の場合は特に不便であった。この写真は、昭和 24 年に県議会議事堂が建設されたときの地鎮祭の様子。



20 広島県議会議事堂（左）

21 広島県議会議事堂内部（右）昭和 24 年頃

[坊 敏之資料 200105]

霞町への移転当初は、5 号館の一角に県議会関係の部屋が割り当てられ、議場は奥まった薄暗い一室に置かれたが、昭和 24 年に 5 号館と 6 号館の間に議事堂が新築された。議事堂は木造 2 階建てで、2 階に渡り廊下を設けて 5・6 号館と結び、議場は 1 階と 2 階を吹抜けにして天井を高くしていた。



22 部対抗秋季運動会 昭和 21 年

[中島 弘資料 200106-11]

昭和 21 年秋に、地元の小中学生を招いて開催された、広島県庁の部対抗秋季運動会の写真。レンガ造り 2 階建の建物が並列する構内の状況がよく分かる。





23 「広島県庁」銘板前に立つ県職員 昭和21年[中島 弘資料 200106-12]

知事公室や総務部の事務室が置かれた6号館には、屋根付きの車寄せが新設され、玄関に「広島県庁」の銘板が掛けられた。

24 日鋼争議（県庁に押しかけたデモ）昭和24年6月18日

[県行政文書 S01-2012-1527 所収]

昭和24年に実施された財政金融引締め政策(ドッジ・ライン)によって、日本経済は深刻なデフレ不況に陥り、企業の人員整理の動きが全国的に広がった。日本製鋼所広島製作所では、6月2日に全従業員の1/3以上に及ぶ730人の人員整理案を発表したため、労働組合が反発し、争議に突入した。占領軍も介入し、県内では戦後最大規模の労働争議となった。この写真は、6月18日に霞町の県庁に押しかけたデモの様子を写したものである。



25 広島大学霞キャンパス・大学病院（左）

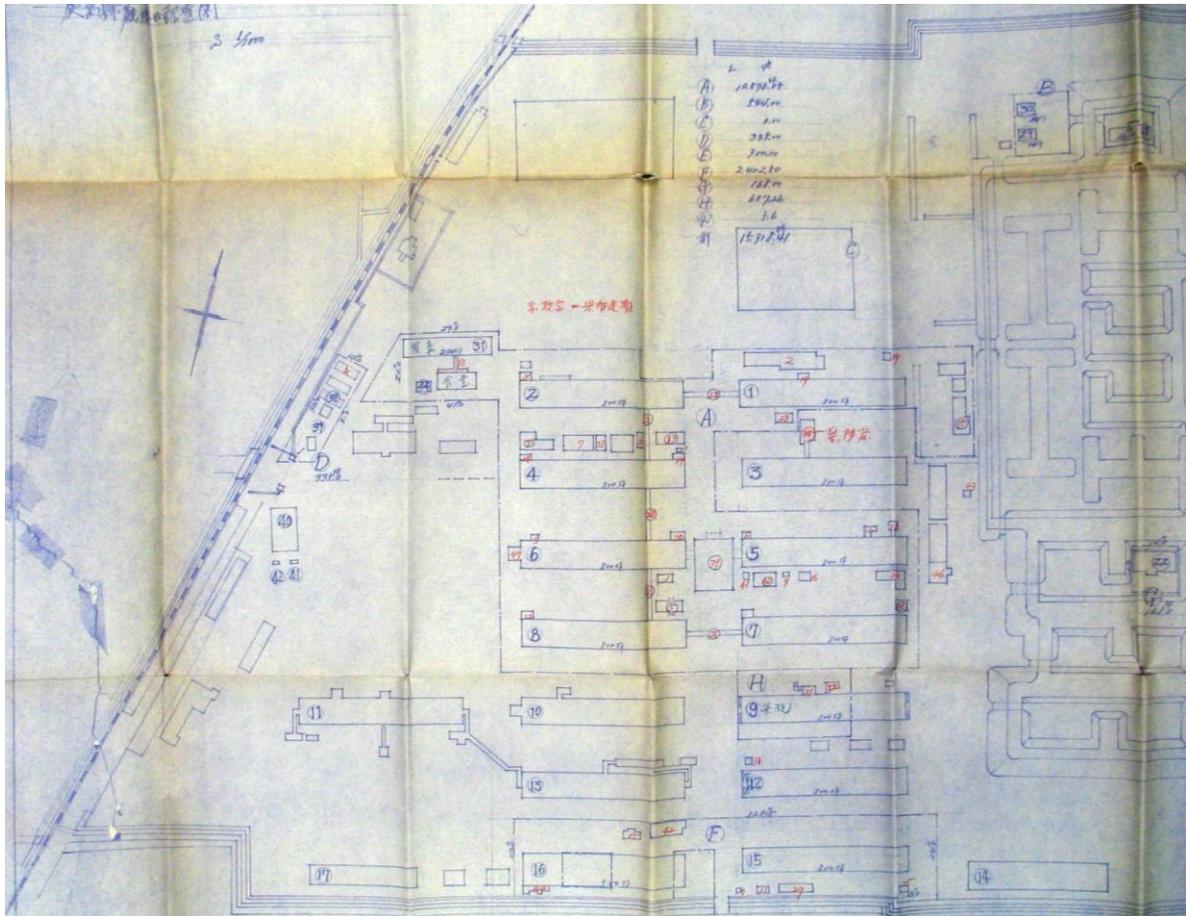
26 広島大学医学部医学資料館（右）平成25年6月9日撮影

昭和31年4月、広島県庁舎は基町に移転し、霞町の旧庁舎建物は国に返納された。この建物は、翌32年9月から広島大学医学部の校舎として利用されたが、新校舎や病院の整備に伴って次々と取り壊され、最後に残った11号館を改装して、昭和53年に医学資料館が設置された。しかし、この建物も、新病棟の整備に伴って、平成11年3月に解体された。現在の資料館は、旧11号館の被爆レンガや石材をできるだけ再利用し、ほぼ完全な形で外観を復元したものである。



27 広島県庁構内配置図 昭和31年〔県行政文書（旧長期保存文書）100400所収〕

「県庁構内県有建物及国有財産内造作評価調書」（昭和31年2月調製）に添付された霞町の広島県庁構内配置図（○付きの数字は各棟の番号）。県は昭和21年以来、国有財産の旧兵器倉庫を借用、30年末までに50,918千円をかけて改修・増築を行い、庁舎として整備した。1～8号館が本庁舎として利用され、9・12・14～16号館等も県の関係機関が利用した。なお、10・11・13号館には、国の機関である中国四国建設局、広島国税局、中国財務局がそれぞれ入居した。



霞町県庁舎主要各棟の利用状況（昭和31年4月現在）

号館	部名・機関名	号館	部名・機関名
1	建築部・商工部・土木部(営繕課)	8	経済部・農地部
2	土木部・陸運事務所	9	県税事務所
3	中国管区警察局・広島県警察本部	12	消防学校・県警察学校
4	教育委員会事務局	14	県警察学校武道場
5	県議会事務局・衛生部	15	県印刷所・職業補導所
6	総務部・(会計・用度課)・広島銀行	16	補導所・修理工場・自動車車庫
7	民生部・労働部	※ 5・6号館の間の建物は県議会議事堂	

Ⅲ 基町新庁舎の建設

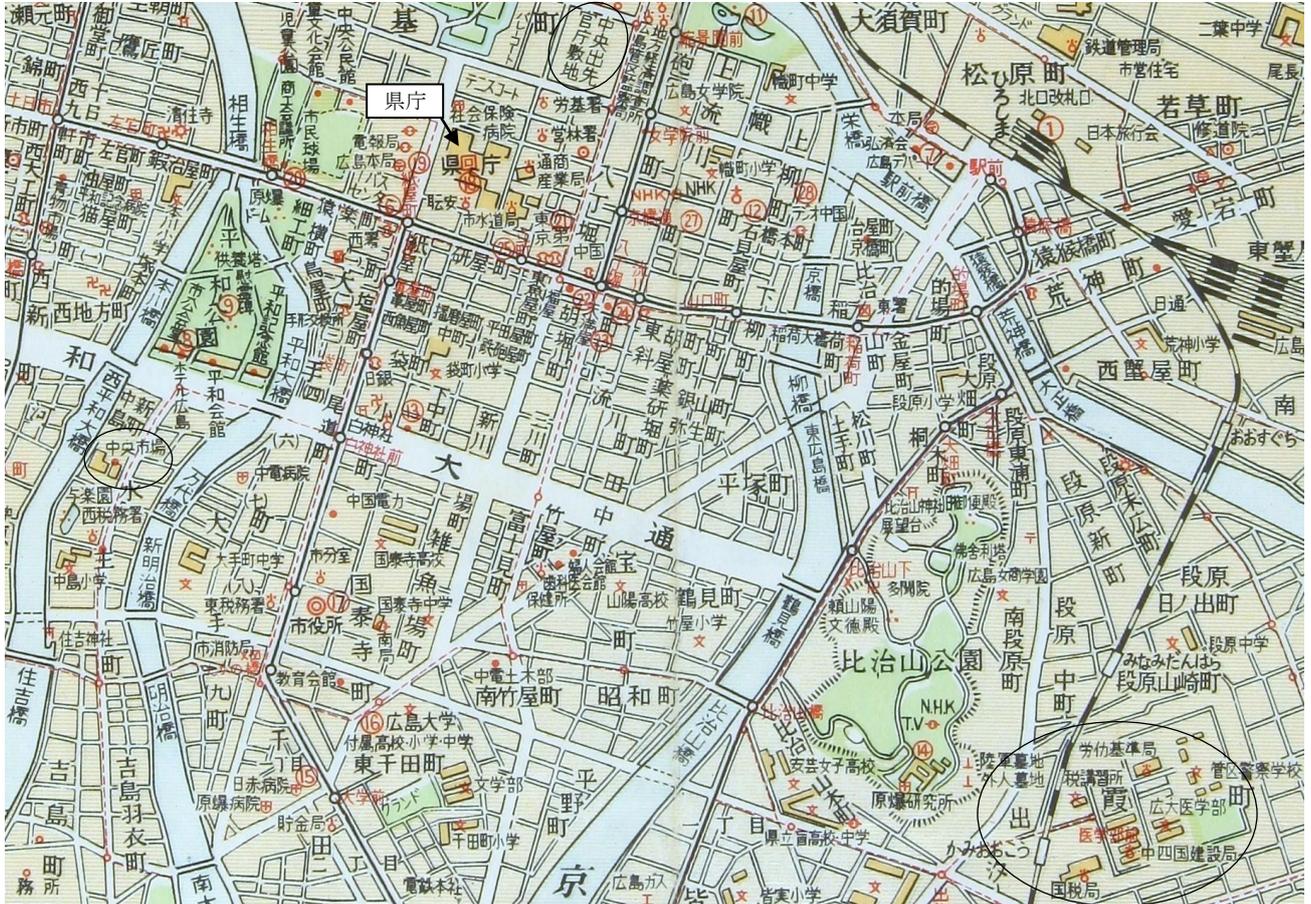
新庁舎の建設については、昭和27年（1952）に広島商工会議所から県議会へ請願書が出され、28年2月定例県議会に県庁舎建築促進についての発議書が提出された。これを受けて、大原博夫県知事らは、財源確保のため国と折衝し、起債が承認される見通しが立ったことから、新庁舎の建設に踏み切った。総事業費9億7千万円で、財界や市町村からの寄付金も見込まれた。

新庁舎は、かねて予定していた基町の西練兵場跡地に建設されることになり、昭和29年3月に着工、先進的な工法と技術を駆使して、2年後の31年2月末に完成した。4月19日には盛大な落成式が開催され、2日間の一般公開では県民5万人が見学を訪れた。

その後県庁舎は、別館（税務庁舎・農林庁舎）、北館、東館が増設され、現在に至っている。平成10年（1998）には、公共建築百選に選定された。

28 広島市全域地図（部分） 塔文社 昭和34年6月 [長船友則氏収集資料 200407-888]

広島県庁舎は、昭和31年4月に広島市基町へ移転し、霞町の旧庁舎は翌32年9月から広島大学医学部の校舎として利用された。この地図が出版された34年6月の時点では、中国四国建設局や広島国税局などの国の機関はまだ霞町にあったが、上八丁堀の「中央出先官庁敷地」と書かれた場所に合同庁舎の建設が進められており、翌35年に移転した。なお、戦前に県庁が所在した水主町には、昭和24年10月に広島市中央卸売市場が開設された。



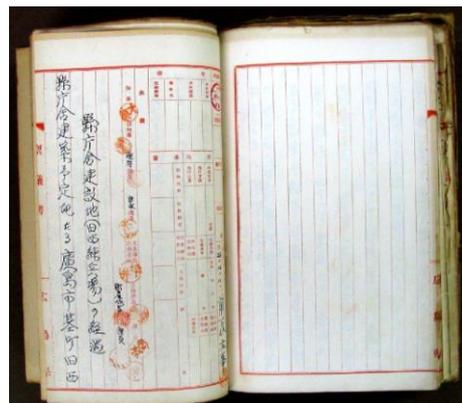
29 公有財産管理／県庁舎建築起工式一件・庁舎移転経過綴・旧県庁舎一件 昭和23～33年（左）

[県行政文書（旧長期保存文書）100400]

30 県庁舎建設地（旧西練兵場）の経過（右）昭和28年12月 [県行政文書（旧長期保存文書）100439所収]

広島県は、戦後の早い時点で、基町の西練兵場跡地を将来の新庁舎建設地として予定しており、昭和22年4月に国から13,500坪の土地を借用した。戦後この場所は、市民運動場（野球場）や農耕地、商店、植樹場等に利用されており、農耕地等については、改めて県から地元の耕作実行組合に貸し付けられた。

昭和25年9月、県は国の意向を受けて、土地区画整理事業による県有地の換地としてこの土地を取得することになり、地元住民に土地の返還と立退きを求めた。住民から補償等の要求があって交渉は難航したが、27年末頃までには概ね解決し、28年11月19日、広島市長から県庁建設予定地として正式に換地の承認を受けた。



資料30は、財政課の庁舎建築担当者が、その間の経緯をまとめて、大原博夫県知事らの幹部に供覧したものである。

31 県庁舎建設予定地航空写真 昭和28年 [県行政文書 (旧長期保存文書) 100439 所収]

昭和28年に撮影された基町の新庁舎建設予定地の航空写真。

左の写真は西から撮影したもので、画面中央の方形の土地が県庁舎建設予定地。その左側には、昭和27年8月に開院したばかりの社会保険広島市民病院が見える。画面手前を左右に走る緑地帯2列の道路は現在の鯉城通りで、当時はマッカーサー道路とも呼ばれた。右の写真は南から撮影したもので、画面左下が紙屋町交差点。画面左上には広島城跡が見えるが、まだ天守閣は復元されていない。



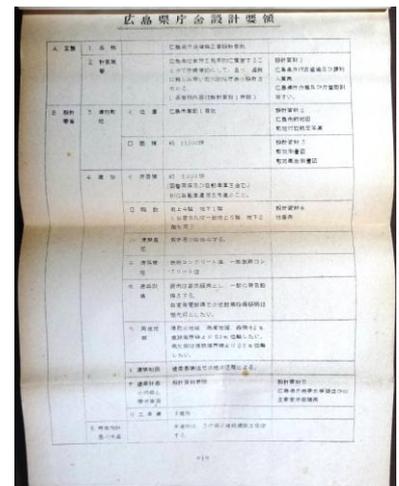
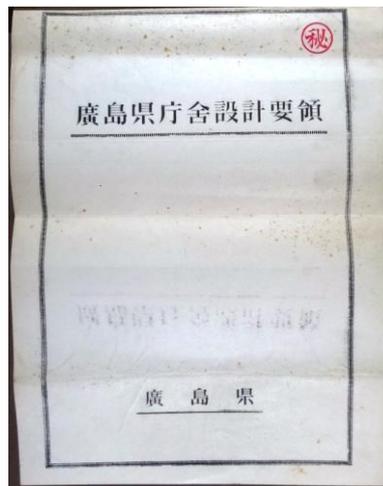
32 県庁舎建設予定地航空写真 昭和28年 [県行政文書 (旧長期保存文書) 100439 所収]

左の写真は北東から撮影したもので、画面中央には県庁舎建設予定地と広島市民病院が、画面左奥には建設中の広島平和会館原爆記念陳列館（現在の広島平和記念資料館本館）が見える。右の写真は北から撮影したもので、画面手前（右下）の広島城跡から、画面奥の広島湾まで、復興が進む広島市街地を一望の下に収める。



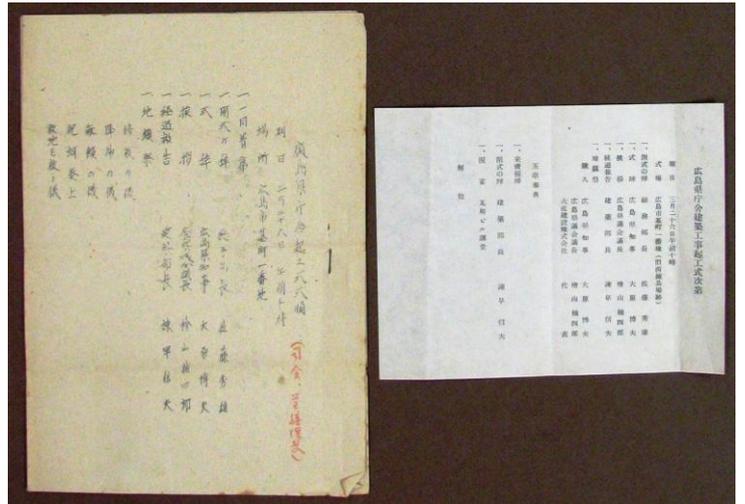
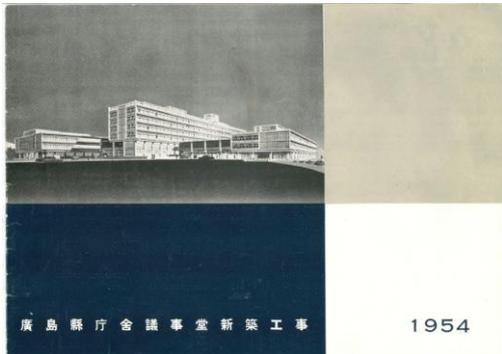
33 広島県庁舎設計要領 昭和28年
[県行政文書 S01-90-293]

広島県建築部営繕課が作成した広島県庁舎設計要領。設計資料として、(1)広島県行政組織及び課別人員表、広島県分課及び事務分掌規則抜すい、(2)広島市街地図、敷地付近航空写真5枚（うち4枚が資料31・32）、(3)敷地測量図・敷地高低測量図、(4)地層表が添付されている。



34 広島県庁舎建築工事起工式資料 昭和29年3月26日 [坊 敏之資料 200105]

昭和29年3月26日に開催された広島県庁舎建築工事起工式の資料。起工式は、午前10時から関係官公署の長、財界の大口寄付者、県議会議員、工事関係者らを招いて盛大に執り行われた。



35 大原博夫県知事式辞原稿 昭和29年3月26日
[県行政文書(旧長期保存文書)100400所収]

広島県庁舎建築工事起工式における大原博夫県知事の式辞原稿。県庁舎の再建をめぐる原爆被災以来9年間の経緯が述べられている。

式辞

本日ここに来賓各位の御臨席を得まして、縣廳舎建築起工の式典を挙行いたしますことは洵によろこびに堪えないと存じます。

顧みずには本縣廳舎は過去の戦災のため焼失致しまして、その後已むなく假廳舎として元合同銀行を、ある時は向洋の東洋工業株式会社の一部を借用して、その後昭和三十一年六月以来、元兵器補給廠の倉庫を國より借用して今日に至りまゝですが、現在の仮廳舎は倉庫造りのため、内部の通風・照明その他不衛生であつて、事務能率上の影響はもとより地理的不便と、さらに年々多額の修理費を要すること等のため、何んとか諸般の事情を許されるならば、本廳舎の再建を固りたいと希望しておりますが、近來内外各方面の強い御要望もあり、また昨年三月の縣議令におきまして特にこれに廳舎建築促進の發議がなされ、また、縣と致しましては、これに應じて、凡ゆる方面につき、慎重なる検討を加え、同時に特に中央において建築の已むなき必要性を認識せられたるに至りましたので、ここに愈々新廳舎建築の決意を致した次第でありまして、以來各方面より絶大な御協力を得まして、今日に至つた次第であります。

新廳舎は、かねて予定致しておりましたこの地を選び、總工費九億七千萬余を以て、設計は日建設工務株式会社により、また、工事は大成建設株式会社の施行によることと致したものであります。

ここにその起工式を舉げられたる、希くは施工過程において最善の技術を發揮せられ、順調無事なる工事の進捗を念願して、己みまひん。

終りに臨みまして縣民諸氏の御支援に対して満腔の謝意を表し併せて今後の御協力を祈願し、式辞と致します。

昭和三十九年三月二十六日
広島県知事 大原博夫

36・37 県庁舎建築工事写真 [県行政文書 (旧長期保存文書) 100392 所収]



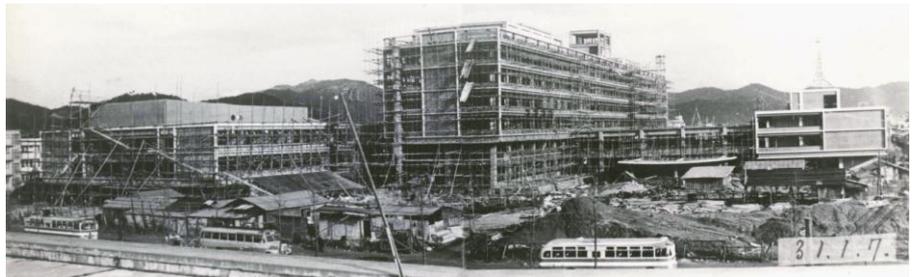
【上の2枚】

昭和29年12月 (北から)

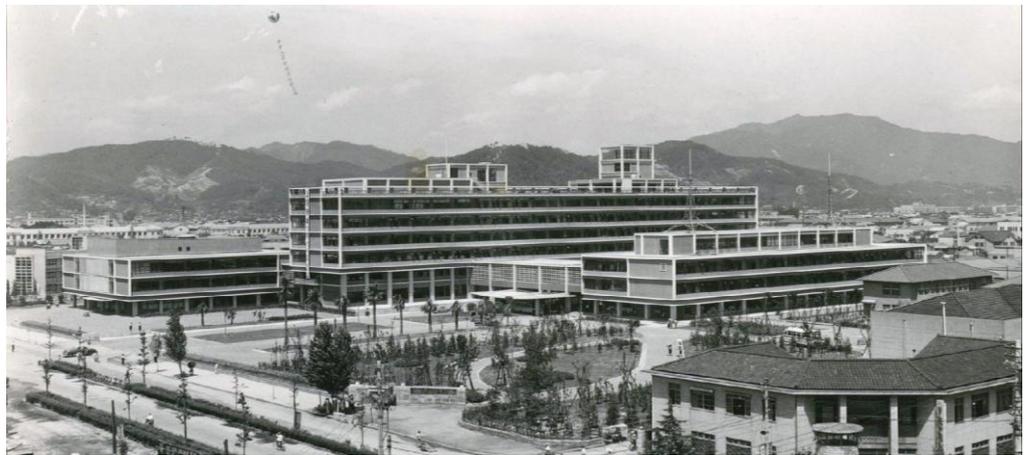
昭和30年7月1日
(南から)



昭和31年1月7日
(西から)



38 広島県庁舎
(落成時, 南西から)
昭和31年
[坊 敏之資料
200105]



39 県庁舎から紙屋町交差点を望む (北東から)
昭和31年 [坊 敏之資料 200105]





40 広島県庁舎新築工事落成式資料

昭和31年4月19日 [坊 敏之資料 200105]

昭和31年4月19日午前10時から新庁舎の正庁（現在の講堂）で開催された広島県庁舎新築工事落成式の資料。大原博夫県知事は、これを契機に一層県政の進展に献身したいと挨拶した。また、落成を記念して、2階ギャラリーで郷土作家絵画展覧会が開催され、小林和作や船田玉樹ら51人の作品が展示された。新庁舎は19・20日の2日間県民に開放され、5万人が見学に訪れた。

41 県庁舎竣工写真 昭和31年 [坊 敏之資料 200105]



中庭



一般事務室



議場正面

42 読売新聞広島版記事「新県庁舎 きょう喜びの落成式」

昭和31年4月19日 [坊 敏之資料 200105]

新庁舎の落成式に関する読売新聞広島版の記事。2,300個の蛍光灯を点灯させた新庁舎の夜景写真を掲載し、その様子を「復興広島のシンボル さながら大洋をゆく豪華船」と伝えている。



43 県庁舎建築事業計画書 昭和29年度

[県行政文書（旧長期保存文書）100398 所収]

昭和29年度県庁舎建築費予算要求書に添付された県庁舎建築事業計画書。新庁舎の建設は、28～30年度の3か年継続事業として、予定価格9億7千万円で計画され、その財源として県費2億円（うち1億円は宇品県有地の売却代金）、起債6億円、寄付金1億7千万円を見込んだ。

44 県庁舎寄附一件 昭和31年度

[県行政文書（旧長期保存文書）100398 所収]

寄付金の分担については、市町村長、同議長、県議会議員、学識経験者（財界）、県職員によって構成された広島県庁舎建築促進委員会において協議され、市町村分1億円、財界分7千万円の目標額が定められた。県職員組合も給料の1,000分の5を30か月間任意寄付することを決めた。寄付申込総額は目標を上回る2億3千万円に達し、財界からの寄付は1億1千万円を超えたが、市町村分については厳しい財政環境の中で納付が昭和32年度までずれこんだ。

45 『建設工業通信』第9巻第10号 昭和31年4月10日

46 『建築文化』119号 昭和31年10月1日

[坊 敏之資料 200105]

新庁舎は、日建設計工務株式会社が設計し、大成建設株式会社が施工した。設計上の特徴は、地盤の悪いデルタ層に杭打ちなしで6階建てを可能にした浮函工法と、主要事務室を南面させた並列配置である。建物と調和した庭園の設計にも意が尽くされた。広島県は、県庁舎工事監督事務所を設けて監理に当たり、昭和29年3月に着工、昭和31年2月末に完成した。工事は、延べ110万時間無事故という、当時の建築業界の新記録を樹立した。



47 農地開拓課の移転作業 昭和31年4月 [大宮利信氏所蔵資料 P201301]

霞町の旧庁舎から基町の新庁舎への移転作業の様子を伝える貴重な写真。当時農地開拓課の職員であった大宮秀男氏が撮影されたもので、各写真のコメントは大宮氏が記入されたものである。



「戸棚・机から搬出開始」



「お昼 弁当で腹ごしらえ」



「バックで地下室に進入」



「更に更に荷物搬入が続けられます」



48 広島県庁舎とその周辺（航空写真、南西から）昭和35年頃 [広島県立図書館移管文書 200811]

昭和35年頃のものとして推定される広島県庁舎周辺の航空写真。旧広島市民球場（昭和32年7月竣工）の東側では、西警察署庁舎の建設工事が進んでいる（昭和36年4月に業務開始）。紙屋町交差点の北東側では第一生命ビルがほぼ完成し（昭和35年10月竣工）、北西側には旧広島バスセンター（昭和32年7月竣工）が見える。市民球場南西側の広島商工会議所ビルは、建て替え前の古い建物である。基町・紙屋町地区は、昭和30～40年代に建設ラッシュで街の景観が一変した。

49 広島県庁舎とその周辺（航空写真） 昭和40～41年頃 [大宮利信氏所蔵資料 P201301]

昭和40～41年頃のものとして推定される広島県庁舎周辺の航空写真で、左の写真は南西から、右の写真は東から撮影したもの。広島県庁では農林別館（農林庁舎）の基礎工事が進んでいる（昭和41年7月竣工）。また、資料48の写真と比較すると、紙屋町地区には三井生命ビルや千代田生命ビル（昭和40年4月竣工）が、相生橋のたもとには広島商工会議所ビル（昭和40年10月竣工）が新たに建設されている。



50 御案内 広島県自治会館

51 広島県自治会館竣工写真 昭和31年4月

[坊 敏之資料 200105]

広島県自治会館は、県庁舎構内の北東隅に建築され、県庁舎とともに竣工した。竣工写真は、県庁舎の上（南西方向）から二葉山方面を望んだもので、復興が進む庁舎周辺の状況がうかがえる。

52 広島県庁舎別館 昭和32年3月

53 広島県庁舎北館 昭和45年10月

54 広島県庁舎北館 昭和45年10月

[坊 敏之資料 200105]

55 広島県庁舎（西から）昭和61年4月

[県行政文書（広報写真）S05-2002-3402]



56 広島県庁舎（航空写真，南西から）平成5年

[県行政文書（広報写真）S05-2008-6-2]



※ 本展は、平成25年6～9月に県立文書館で開催した同テーマの展示会で紹介した資料に、新たな収集資料を加えて再構成したものです。
(担当：荒木 清二)